

稲沢市総合計画審議会〔第1回〕会議録

【日 時】平成28年8月26日（金） 午後2時～3時30分

【場 所】稲沢市産業会館大会議室

【出席者】稲沢市総合計画審議会委員（敬称略）

加藤錠司郎	稲沢市議会議員
杉山茂和	稲沢市議会議員
川合正剛	稲沢市議会議員
志智 央	稲沢市議会議員
渡辺ちなみ	稲沢市議会議員
朽本敏子	稲沢市議会議員
秀島栄三	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 教授
田中基夫	愛知文教女子短期大学 教授
小島洋一	稲沢商工会議所 副会頭
田中浩三	祖父江町商工会 会長
松岡重夫	平和町商工会 会長
大津幸博	愛知西農業協同組合 代表理事専務
青井 博	稲沢市教育委員会 教育長職務代理者
大島宏之	稲沢市医師会 会長
山内孝三	稲沢市社会福祉協議会 会長
柿沼 晉	稲沢市老人クラブ連合会 会長
鈴木恵理子	稲沢市子ども会連絡協議会 顧問
後藤清敬	名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 土木部建設課 課長
酒井律治	防災ボランティア稲沢 会長
各務容子	ママサポートぴよぴよ
定行加保里	公募
坪内留美	公募
永井美妃	公募
中西 弘	公募

〈事務局〉

大野紀明	市長
篠田智徳	市長公室長
足立直樹	市長公室次長兼企画政策課長
大口 伸	企画政策課主幹
吉川修司	企画政策課主査
荻原幸雄	企画政策課主査
新見 巧	企画政策課主任

【議事次第】

- 委嘱状交付
- 市長あいさつ
- 自己紹介
- 会長・副会長の選任について
- 諮問
- 1 協議事項
 - (1) 今後の運営方法及びスケジュールについて
 - (2) 第6次稲沢市総合計画について
 - (3) 基本構想（案）について
 - (4) その他

【会議の概要】

委嘱状交付

[事務局]

定刻となりましたので、第1回稲沢市総合計画審議会を開催させていただきます。本日の進行を務めます、市長公室次長兼企画政策課長の足立直樹です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、初めに委嘱状を交付させていただきます。代表して、加藤錠司郎議長にお渡しさせていただきます。他の皆様におかれましては、自席に配布させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

〈 市長から代表者（加藤議長）へ交付 〉

[事務局]

続きまして、大野市長からご挨拶を申し上げます。

市長あいさつ

[市長]

皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、また残暑厳しき折、第1回稲沢市総合計画審議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

日頃、市政各般にわたりまして、それぞれのお立場で安心・安全・元気な本市のまちづくりのために、ご理解とご協力を賜っておりますことを、厚く御礼申し上げます。

ただいま、加藤議長に総合計画審議会の委嘱状を交付させていただきました。この審議会は、向こう10年間の本市をどうするかという大きなテーマで進めなければなりません。

本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の中で5つの重点戦略を掲げていますが、この重点戦略を第6次総合計画の10年間できちんとした形にしなくてはなりません。人口減少、

そして高齢化、少子化の問題を考えるには、10年後の本市がどんな状況になっているのかを基本に置いて進めていかなければなりません。

いつも市長は財源の話ばかりすると言われますが、今後財源が思うようにならないのが現実です。普通交付税の合併算定替が段階的に削減され、最終的には20億円の歳入減少が見込まれます。人口減少、少子高齢化に伴い、経済の右肩上がりは今までのように続きません。また、消費税10%への増税が2年半遅れたことで、社会保障への財源をどうするかも大きな課題です。

住民の皆様の要求がたくさんございますので、そうしたことも踏まえながら、私どもも行政展開をしまいがちですが、財源調整を行いながら実現を目指す必要があります。総合計画を策定する上では、財源調整の中でやることやらないことをはっきりとさせておかないと絵に描いた餅になってしまいます。この点を含めて、どうしたらいいのか、皆様にご支援、お知恵をいただきたいと思っております。

人口減少の中での総合計画策定は初めてです。今までは右肩上がりでしたが、今度は縮小均衡型総合計画にならざるをえない側面もあります。国と地方を合わせて1,000兆円を越える借金が日本にあり、国民1人当たり800万円くらいになります。このこともご理解賜り、抜本的に見直す議論も必要です。今まであったものがそのまま残る、このことがすでに難しくなっています。財源をどうするのか。施設の統廃合もしなければなりません。今、統廃合の話をする、今までその施設を利用してきたかたから反対されますが、その施設を残すことによって、そうしたかたが高齢になったときの面倒を誰が見るのでしょうか。そのスタンスをきちんとしないと、後年、若者に借金を残すことになります。

施策を選択し、行政資源を集中させて、本市の強みを生かしていきたい。これが今度の第6次総合計画の特色だろうと思っております。

現役で頑張っている人が、それを乗り越えて次の世代に渡していく。その気概を持って私ども進めたいと思っております。夢ばかり描いては実現できませんので、そうした点について議論していただきたいと思っております。

本市にどうやって定住してもらうか、ずっと住んでもらうかを考えねばなりません。今年度から本市も第3子以降の保育料を無料にしました。そうした取組みも含め、本市に留まってもらうための定住政策は何か良いのか、お知恵をいただきたいと思っております。

東の玄関口はJR稲沢駅が中心になりますが、もう一つの都市拠点である名鉄国府宮駅界限も放っておくわけにはいきません。いずれの駅も名古屋駅から10分であり、ここをどうするのか。市街化区域の割合が少ない本市が大きく変わるにあたり、ここが最も重要な取組みだと考えます。思い切った財源投資も必要と思っております。

人口減少と少子高齢化、これに対してどう向き合っていくか、どうぞ忌憚のないご意見を賜りまして、総合計画の完成までお知恵をいただきますようお願いを申し上げます、あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介

[事務局]

それでは、お手元のレジュメに基づいて順次進めさせていただきます。本日は第 1 回目の会議でございますので、委員皆様のご紹介をさせていただきます。併せまして事務局の紹介もさせていただきます。

なお、本市が総合計画策定におきまして業務委託をしておりますコンサルタント企業におきましても、この審議会へ出席をさせていただきますことをご許し願いたいと存じます。

それでは、資料 1「第 6 次稲沢市総合計画審議会委員名簿」をご覧ください。大変恐縮に存じますが、名簿の初めにお名前がございます加藤錠司郎様から順次、自己紹介をお願いしたいと存じます。

なお、本日ににつきましては、栗林芳彦様、鈴木忠様、平井直人様からご欠席される旨ご連絡を賜っております。また、森岡庸晃様におかれましても急遽ご欠席される旨ご連絡がありましたので、恐れ入りますが配席図のご訂正をお願いしたいと存じます。

それでは加藤様から、自己紹介のほどよろしくお願い申し上げます。

〈 名簿掲載順に自己紹介 〉

[事務局]

皆様ありがとうございました。次に、事務局職員とコンサルタント企業の自己紹介をさせていただきます。

〈 事務局の自己紹介 〉

会長・副会長の選任について

[事務局]

続きまして、会長、副会長の選任につきまして、お願いをさせていただきます。資料 2「稲沢市総合計画審議会条例」をご覧ください。条例の第 4 条に「審議会に会長及び副会長を置く。」とありまして、同条第 2 項に「会長及び副会長は、委員の互選によって定める。」と規定されています。会長、副会長をそれぞれお決めいただきたいのですが、ご意見はありませんでしょうか。

[委員]

会長には名古屋工業大学大学院教授の秀島栄三先生にお願いしたらどうかと考えます。

また、副会長には議会の中から加藤錠司郎議長にお願いしたらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

〈 委員より「拍手」あり 〉

[事務局]

どうもありがとうございます。資料 1 の「第 6 次稲沢市総合計画審議会委員名簿」をもう一度ご覧ください。会長には名古屋工業大学大学院教授の秀島栄三様をご推薦いただきご意見でございました。秀島委員におかれましては土木計画学がご専門でございまして、日本計画行政学会の中部支部幹事長を務められており、各地の総合計画の策定にもご参画されておられます。また、昨年度本市が策定いたしました「まち・ひと・しごと創生総合戦略」におきましても戦略会議の会長をお務めいただいております、会議の運営等に多大なご尽力をいただいております。

また、副会長におきましては稲沢市議会の中からということで、市議会議長の加藤錠司郎委員をご推薦賜るというご意見でございました。

皆様のご賛同をお願いしたいと思います。拍手で賛同の意を表わしていただきたいと思っております。

〈 委員より「拍手」あり 〉

[事務局]

どうもありがとうございました。会長に秀島栄三委員、副会長に加藤錠司郎委員が選ばれました。秀島会長と加藤副会長におかれましては、会長席、副会長席へお移りいただきたいと存じます。どうぞよろしく申し上げます。

〈 会長、副会長は、各席へ移動 〉

[事務局]

それでは、秀島会長と加藤副会長からごあいさつを賜りたいと存じます。秀島会長より申し上げます。

[会長]

改めまして秀島でございます。ただいまご指名にあずかりました。昨年、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関わらせていただいて、稲沢市のことを勉強させていただきました。総合計画は数年前から、自治体では作っても作らなくてもよくなりましたが、せっかく作るわけですからこの地域の良さをより良くし、問題があるところはなくしていく、そうしたことについて皆様から積極的にご意見をいただきたいと思っております。そして、実効性のある計画を作り上げたいと思っておりますので、どうかご協力のほどよろしく申し上げます。

[副会長]

副会長にご推薦をいただきました、稲沢市議会議長の加藤錠司郎でございます。稲沢市が平成 30 年度から 10 年間にわたって行うまちづくりの最上位計画であります、総合計画

策定に関われることは、大変名誉なことだと思っております。

市長のお話にありましたように、本市は市街化調整区域が約 9 割弱ということで、今後の人口減少の中でまちづくりをどうしたらいいか、という大きな問題を抱えていると考えています。また、そうした時代に高齢者の福祉をどうするか、また、子育て支援でどのように特徴を打ち出すかが、非常に大きな問題だと認識しております。

各界各層から皆様お集まりでございますので、フランクに、建設的な意見を出し合って、秀島会長を支えながら、しっかりとした総合計画を策定していきたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

諮問

[事務局]

どうもありがとうございました。続きまして、大野市長から諮問をさせていただきます。

〈 市長は会長席まで進み、秀島会長へ諮問書を提出 〉

[事務局]

それでは、議事に移らせていただきますが、市長につきましては、この後予定がございますので、ここで退席させていただきたいと存じます。

〈 市長退席 〉

1 協議事項

(1) 今後の運営方法及びスケジュールについて

[事務局]

改めまして議事を進めてまいりたいと存じます。会議の議事進行につきましては、先ほどもご覧いただきました稲沢市総合計画審議会条例第 4 条第 3 項の規定によりまして、会長が務めることとなっております。以後の議事の取り回しにつきましては秀島会長にお願いしたいと存じます。秀島会長どうぞよろしく願いいたします。

[会長]

それでは早速ですが、条例に基づきまして議長を務めさせていただきます。最初に、協議事項 1 「今後の運営方法及びスケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【「稲沢市総合計画審議会の運営に関する確認事項」、「稲沢市総合計画審議会運営要綱」、「稲沢市総合計画審議会開催スケジュール（案）」について説明】【資料 3～5】

[会長]

ただいま協議事項 1 の説明が終わりました。ご質問のある場合は挙手をされまして、指名後にご発言いただくようお願い申し上げます。まず、部会の構成についてですが、事務局から提案はありますか。

[事務局]

大変僭越ではございますけれども、事務局案としまして、部会の構成案をお配りさせていただきます。

ただいまお配りした部会の構成案でございますが、本審議会の委員 28 名皆様の所属団体等を鑑みまして、第 1 部会、第 2 部会ともに 14 名の委員となるよう構成をさせていただいたものです。

また、各部会の部会長並びに副部会長の事務局案についても、この名簿に基づきましてご提案させていただきます。第 1 部会におきましては、部会長は稲沢商工会議所副会頭の 小島洋一様に、副部会長は愛知西農業協同組合代表理事専務の 大津幸博様に、第 2 部会におきましては、部会長は稲沢市医師会会長の大島宏之様に、副部会長は稲沢市老人クラブ 連合会会長の 柿沼晋様をお願いをさせていただきたいと考えております。

以上お諮りいたします。よろしくようお願い申し上げます。

[会長]

部会長、副部会長の選任について、今ご報告いただきました事務局案のとおりでご賛同いただけますでしょうか。

[委員]

個人的なことで大変恐縮です。第 1 部会に入れていただいておりますが、第 1 部会は基本的に月曜日です。家庭裁判所の調停員をさせていただいており、これが月曜日のため出席できなくなってしまいます。ご配慮いただけますとありがたいです。

[会長]

第 2 部会に出ていただくというのは、どうでしょうか。

[委員]

そのようにお願いします。

[会長]

では、この場で修正をさせていただきたいと思っております。委員につきましては、第 1 部会ではなく第 2 部会にご参加いただくことでよろしく申し上げます。

[委員]

この案を見せていただきますと、審議会の会長と副会長の両名が第 1 部会に入っています。審議会の会長、副会長については同じグループではなく、各グループに別れて、全体の考え方をサポートされるほうが一層よろしいのではないかと思います。いかがですか。

[委員]

男女を差別するわけではないのですが、全体的な意見を求めるのであれば、第 1 部会に女性が少ないので、市議会議員の委員間でバランスをとっていただけたらいいと思います。

[会長]

もし、よろしければ市議会議員の委員間で入れ替えをしていただくことはどうでしょうか。

〈 市議会議員にて協議 〉

[会長]

市議会議員の委員で調整いただきました。加藤委員が第 2 部会に、朽本委員が第 1 部会に代わります。人数は同数ではなくなりますが、それぞれに人数は十分いらっしゃいますので、人が少なくて議論ができないことはないと判断しますが、よろしいでしょうか。

もう一度、部会長、副部会長について確認します。第 1 部会の部会長には稲沢商工会議所副会頭の小島洋一さん、副部会長には愛知西農協代表理事専務の大津幸博さん。第 2 部会の部会長は稲沢市医師会会長の大島宏之さん、副部会長には稲沢市老人クラブ連合会会長の柿沼晋さんをお願いいたします。加えて、先ほどのメンバーの交代、移動があります。

続きまして部会の日程について、正副会長、正副部会長におかれまして、現時点でスケジュールに支障がありますでしょうか。問題ないようでしたら、事務局からご提示のスケジュールで年度末まで向かいたいと思います。

(2) 第 6 次稲沢市総合計画について

[会長]

続きまして協議事項 2 「第 6 次稲沢市総合計画について」、事務局より説明をお願いします。

= [事務局] =

【「第 6 次稲沢市総合計画に係る 2015 年度の取り組み・調査概要」、「計画の概要」について説明】【資料 6・7】

[会長]

ただいま協議事項2の説明が終わりました。ご意見、ご質問はございますか。

[委員]

資料7で稲沢市ステージアッププランが示されております。これには第6次稲沢市総合計画の素案という言葉が使っております。私どもは市長から諮問を受けて総合計画策定について議論するわけですが、この「素案」という意味は、基になる案の枠内で議論しろということなのではないでしょうか。私は、特に最初1~2回は委員さんの自由な議論があってもいいのではないかと考えておりますが、事務局のお考えをお聞きしたいと思います。

[事務局]

市では、第6次総合計画策定に向けまして、昨年、各種アンケートを行ったり、様々な分野でご活躍いただいている市民の皆様インタビューを行ったりするなど、基礎調査を重ねてまいりました。それを踏まえ、本市における現状もしくは課題等を整理させていただき、庁内組織、職員で協議検討させていただいた素案をお示ししております。

委員がおっしゃるとおり、最初は素案を示さず、委員の皆様からご意見を賜ってからというご意見も十分理解いたすところでございます。ですが、私どもといたしましては事務局から提案させていただきました案につきまして、不足する部分、また、認識や現状把握が誤っている部分など多種多様なご意見を賜りながら、皆様それぞれの視点を生かして、総合計画を策定してまいりたいと考えているものでございます。

ゼロからご審議賜るよりも、まずは事務局案をお示しし、これに基づきながら足りない部分について、皆様の意見を踏まえて総合計画の策定を進めさせていただきたいと考えております。

[委員]

昨年、本市でもまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定されたことは存じ上げております。行政経営改革はずっと前から本市で取り組んでいることも分かっておりますが、資料7の2ページに既に3つの大きな柱が位置づけられており、これが今後の自由な発想をある意味阻むことになってはいけないとも思います。大きな問題点は総合戦略などの策定で明らかになってきているのは事実だと思いますが、やはり自由な視点から議論ができるような雰囲気をごひとも事務局として作っていただきますように要望を申し上げます。

[事務局]

ただいまのご質問・ご要望についてですが、事務局の素案にとらわれて議論していただくということではなく、皆様それぞれ、本市をこうしていきたいという建設的なご意見がございましたら、素案の中味にとらわれず、忌憚なく仰っていただければ、私どもの内部

でも検討させていただきたいと考えております。現在、第6次総合計画の愛称が「ステージアッププラン」であると説明しましたが、議論した結果、違う名称になるかもしれません。素案にとらわれず、あくまでもここでの議論のたたき台だということでご認識いただければと思いますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたいと思います。お待ちしております。

[会長]

回数は十分ありますので、自由に、広く議論したいと思っております。他にいかがでしょうか。

[委員]

第6次総合計画は市の今後の方向性を占う大事な計画だと思っておりますが、一方で市の今後の取組みを決めるに当たって、市長の公約も大事な要素になってくると思っております。そちらとの兼ね合いはどうお考えでしょうか。例えば、アクション2022年とアクション2027年は5年で区切っていますが、ここは、市長の任期に合わせて区切るという方法もあると思うのですが、その点はどうでしょうか。

[事務局]

アクション（いわゆる推進計画）の計画期間と首長の任期をリンクさせるような取組みを行なっている自治体があるということは承知しておりますし、そういった手法も考えられると思っております。また、一部の市町村では総合計画の計画期間を8年ですとか12年ですとか、市長任期の4年とリンクさせるような所もございます。

総合計画の本文中でも何回も言及することになりますが、2027年がリニア中央新幹線の東京・品川と名古屋間が開業する年です。それを見据えて名古屋駅前でも大規模な開発がされ、オフィス人口が1万人ほど増えるという話もございます。そうした流れをこの10年間で本市も最大限取り入れていく、これが今後の本市の発展を考える上で非常に大事なことと思われまます。そうしたことを第一に考えた結果、2027年度までの10年間という計画期間の設定を考えております。

[委員]

市政について今後どのようなことに取り組みねばならないかを考えることも必要ですが、今、早急にやらなくてはいけないことがいっぱいあると思っております。目標年にとらわれず、今、何をするかを考えることがこの委員会の究極の使命ではないでしょうか。

子育て支援問題、それから冒頭で市長があいさつで言及された定住政策、本市から転出することなく、そのまま住んでいただくような、住みやすい、安心・安全なまちづくりが、これからの審議において根本的なことだと思います。2060年の人口推計を皆様ご存じだと思います。今は136,000人の人口が2060年には87,000人になる推計があります。こうした

ことを踏まえますと、大変な危機感を持っています。私たちは先に死んでしましますが、若者が本市を魅力に思うようまちづくりをするには、私たちはどのようにしたらよいのでしょうか。

また、一宮市、津島市、様々な隣接市がある中、子育て支援や給食費において助成をする等、本市に住むとこういった特典がある、こういった利点がある、とアピールするような事細かな施策もこれから必要になってくるかもしれません。少子高齢化も大きな問題ですが、土地の問題、いわゆる線引きの問題も重要です。市街化区域の線引きを変えるとなると、都市計画税の税金等が発生します。非常に難しい問題です。細部にわたっての審議がこれから早急に必要です。

これからはマニュアル通りで済ますことはできません。特区を作ったり、条例を変えたり様々な施策を行い、後から「しまった」ということが起きないためにこの審議会があると思います。皆で一生懸命頑張って審議したいと思います。

あと、教育問題について、今、いろいろな事件が報道されています。そこで、教育に関する特区申請はどうでしょうか。教育委員会が、他市とは違った独自の特区等を作って先生に支援を与える等です。子育て支援はこれからの日本を作る大変重要なことです。だからこそ、これからの日本は教育が一番肝心で、それを間違えると日本は終わります。郷土、文化の問題もしかりです。日本にはいいものがいっぱいあります。本市にも大きな資産がありますし、風光明媚な自然がいっぱいあります。こうしたことを尊重し、いかに活用して市民に還元をするかが重要です。こうしたことに早急に取り組んでいただきたいと思えます。

[委員]

2015年度に取り組んだアンケートに関する資料6ですが、これは市として毎年調査を行っているのでしょうか。

近隣との比較を行う際、どの辺りまでを対象に近隣としているのでしょうか。委員として、アンケートを基に、自分たちの団体等と比較して意見を述べる形になると思いますが、このアンケートはどの辺りまでターゲットを絞り込んだ調査なのでしょうか。世代別でアンケートを取られていると書いてありますが、例えばそこで生まれて、ずっと住んでいる20代のかたにアンケートを取ったのか、住んで1年目のかたにアンケートを取ったのか。それがどこまで具体性があり、信憑性があるものかを確認したいです。

[事務局]

資料6の1ページをご覧ください。こちらに各種アンケートの目的、対象、調査項目、回答者数がまとめてあります。

毎年実施しているのかというご質問ですが、こちらのアンケートについては、昨年度「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたり新規に実施したものもあり、今回総

合計画を策定するにあたり 10 年ぶりに実施したものもあります。

将来のまちづくりに関するアンケートは、総合計画策定に関わる調査です。結婚・出産・子育てに関するアンケート、稲沢市への I ターンに関するアンケート、若者の進路選択等に関するアンケート、これらはどちらかといえば「まち・ひと・しごと創生」の関係で行ったアンケートです。総合戦略と総合計画とは深くリンクしますので、その調査結果については総合戦略だけではなく、今回の総合計画の策定にも使っていきたいと考えております。

対象者につきましては、住民基本台帳から無作為抽出を行いました。そのため、居住期間など細かいところまでは条件付けをしておりません。

「近隣」に関するご質問もありましたが、将来のまちづくりに関するアンケート、結婚・出産・子育てに関するアンケート、若者の進路選択等に関するアンケートは、対象は本市のみでございます。一方、稲沢市への I ターンに関するアンケートは、ネットリサーチ会社を利用して行いました。ネットリサーチ会社の登録会員のうち、首都圏在住者を 250 人程抽出し、「稲沢市のことを知っていますか?」「こういう特徴があるけれど、どう思いますか?」というアンケートをさせていただくとともに、名古屋圏、いわゆる愛知県の尾張地域在住者に対しても同じく 250 人程度をスクリーニングしまして、「稲沢市のことを知っていますか?」等についてお聞きしました。

こちらの結果を基に、総論だけではなくて各論でも、調査結果を踏まえた施策を立案し、計画に落とし込んでいきたいと思っております。

[委員]

本市の将来を考えると、本市だけではなくて、名古屋市、あるいはあま市、一宮市、そうした周辺の都市が将来についてどう考えているのか。人口等はお調べいただいておりますが、そうしたことも勉強してもらわないといけないと思います。

周辺都市の動きも考えながら、本市がこれからどう生きていくのか、我々としても考えなくてはいけませんし、市もお考えいただきたい。そうした資料についても、少しでもお持ちならばお出しいただきたいと思っております。

[会長]

そのような委員のご意向に応じ、追加の資料や調査などの可能性はいかがでしょうか。

[事務局]

他市事例等の調査研究につきましてはコンサルタントの支援をいただきながら色々まとめていく部分もあると存じます。

今後、審議会を開催する中で、基本計画の総論、各論におきましては、他市比較のような資料をご提示する必要もあると考えております。委員からいただきましたご要望に応じ

られるよう、調査研究もさせていただいて、資料も調整させていただきたいと存じます。

[委員]

資料7の4ページを見ると、名前は変わっているものの、正直な感想として第5次総合計画とあまり代わり映えしないと思います。特にアクションのいわゆる推進計画に当たる部分が、前後期5年に分けてあります。時代や状況の変化に瞬時についていくには、5年では長すぎるのではないかと思いますので、せめて前期・中期・後期というふうに分けるほうが、変化に対応しやすい計画になると思います。

[事務局]

アクションの前後期5年間の計画期間は長すぎるのではないかというご意見でございますが、庁内の委員会でも意見を聞きながら進めております。例えば計画期間を3年とする案もありましたが、道路や箱物を作るハード系の整備が3年では見通しが立てにくいといった意見がありました。そうしたことを踏まえ、前後期5年という現行の推進計画を引き継ぐ形となった経緯があります。

今後の議論の中で頂いた意見を基に、再検討する必要もあると思いますが、現時点での事務局案として出しております。

[会長]

前期・中期・後期に変更する可能性がないわけではないということですか。

[事務局]

先ほども他の委員からご要望がありましたが、これが決定案というものではありません。この場でも、庁内の検討委員会でも、自由な議論は当然いつでも担保されており、そうしたところで様々なご意見をいただきながら、計画の構成や期間についても決めていきたいと思っております。

現時点での事務局からの案とご承知置きいただければと思っております。

[会長]

だいぶ会議の終了時間が近付いています。資料7の続き、ビジョン2027の説明もまだですが、先ほどの意見もありましたので、皆様のご意見を優先してお聞きしたいと思えます。

ここまでのところで、計画そのもののあり方について、すでに多くの意見を伺っていますが、またご発言していない人でどなたか意見はありますでしょうか。

[委員]

第5次総合計画について、どこまで達成できたのでしょうか。

[事務局]

第 5 次総合計画の検証につきましては現在、第 5 次総合計画における政策分野の担当部署において評価シートの作成を依頼済みであり、取りまとめたものもあります。そのままお出しすべきか、それとも各論の議論の中で、分野別での総括として出すべきなのか、現在検討している段階です。当然、達成できた部分もあれば達成できていない部分もありますので、そういった検証結果は何らかの形で第 6 次総合計画にも引き継いでいく必要があるとは考えております。

[委員]

冒頭、少子高齢化というお話がありましたが、私ども鉄道事業においても相当の危機感を持っています。

先ほどから話があるように、本市は名古屋からたった 10 分であり、「ミュースカイ」や特急を、名古屋駅からどこにも停めずに国府宮駅に一番に停めるという施策を打って、皆様にお使いをいただいております。こちらの地区は国府宮神社という神聖な場所があり、はだか祭という伝統的な神事があり、私どもも非常に魅力的でポテンシャルが高い地区と思っております。

ものづくり産業は西三河のほうが活発ではありますけれども、10 分という立地を考えますと、こちらのほうがポテンシャルは高いのではないかと考えています。ただ、なぜか人が住んでいただけないというところは、皆様もご認識のとおりだと思います。

市街化区域が広がっていないことは事実で、市街化調整区域ばかりという話も事務局からお伺いしていますが、この市街化区域の中でも、開発の余地はあるとお見受けしております。その中で名鉄国府宮駅が重点に置かれている点は、非常にありがたいと思っており、そうした想いで市が策定された総合戦略はまさにそのとおりだと私どもも思っております。

ただ、土地区画整理事業を先行的にされたり駅前広場を作ったりと先駆的なことをやられた自治体でも、そこからの発展に踏み出せていないというのが現状だと思います。地元における再開発への意欲がなかなか聞こえにくい、意欲が感じられないのが原因ではないかと思っています。自治体が主体となって働きかけていくというのは力が必要だと思いますが、ぜひ市には頑張っていただきたいと思っております。

一点お伺いをしたいのは、総合戦略を一度まとめられて、名鉄国府宮駅周辺の再整備をクローズアップしていただきましたが、やはり地域が盛り上がってこない、自治体だけではなかなか難しいと思われま。そういう盛り上がりを感じるころはあるのか、そういう施策を打とうとしているのかお聞かせいただけるとありがたいです。

[事務局]

総合戦略で謳いました名鉄国府宮駅周辺の再整備につきましては、現在関係部署におきまして調査をしている段階であり、地域における盛り上がりというものについては見受け

られない部分がございます。今後の事業展開におきましては、この総合戦略に基づき、取り組んでまいりたいと考えております。

[委員]

ありがとうございました。先ほども即効性、まずはできることから、というお話がありましたのでもう一点ご提案します。頭の片隅に置いていただければと思います。

名鉄国府宮駅について、バリアフリーを市と名鉄とが共同して行っておりますが、東側への階段については使っていただくにはちょっと苦しいところがあります。そういうところを整備するところから地域が盛り上がる方法もあると思います。

[委員]

私は平和町に住んでいますが、この案を見させていただく限り、開発が優先されているように思います。本市に今住んでいる人たちがこのまちに住んでよかったという、元気が出るようなまちづくり、それを進めていく視点で私も考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

[会長]

ありがとうございます。本当はもっとお聞きしたいのですけれども、予定の時間がまいりました。最後の議題の説明が全て終わっていませんが、以上をもちまして、これで第1回目の会議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

[事務局]

どうもありがとうございました。会議を終了する時間がまいりましたので、次回の会議におきましては、残ったご説明部分につきましてもお時間を頂戴したいと存じます。

それでは、この会議を終了するに当たりまして、市長公室長から一言あいさついたします。

[市長公室長]

本日はお暑いところ、また、お忙しいところ、ご出席いただきありがとうございました。また、長時間にわたりご審議をいただきましてありがとうございました。先ほどもお話をさせていただきましたが、あくまでお配りした資料は案であり、議論の材料・たたき台だと考えております。皆様何なりと、ご意見があれば頂戴したいと思います。

また、この会議で言い尽くせない部分もあるかと思っておりますので、帰られて気づかれた点、あるいはご意見があれば、事務局にお話いただければ、意見として扱わせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は長時間、本当にありがとうございました。